

2017 年 6 月度 建築音響研究会 開催報告

6 月度の研究会は一般財団法人小林理学研究所で開催しました。研究会のテーマは一般で、拡散場と生命現象（Ⅳ）、「空間の音」から「場所の音」へ その 2、アメリカのパブリックスペースの音環境調査の報告、トンネル内避難誘導のための拡声放送用メッセージの設計など、幅広い 4 件の発表が行われました。また、研究会後には実験施設の見学会が開催されました。参加者は 20 名で、非常に活発な質疑討論が行われ、研究会は大変盛況でした。今後も引き続き、積極的な話題提供と研究会への多数のご参加をお願い申し上げます。

■ 開催概要

日 時 平成 29 年 6 月 23 日（金）
13:30～16:30
場 所 一般財団法人小林理学研究所
会議室
〒185-0022 東京都国分寺市
東元町 3 丁目 20 番 41 号
参 加 者 20 名



■ 発表題目および内容概要（テーマ：一般）

※以下の概要は建築音響研究会資料の「内容概要」から転載したものです

1. 拡散場と生命現象（Ⅳ）ー 拡散場のサイズとエネルギー ー

○久野和宏

【概要】時空（4次元）の領域にエネルギーが一様に分布した拡散場を取り上げ、その時間的・空間的サイズとエネルギーとの関係について考察する。また、3次元及び2次元時空の拡散場についても同様な考察を行う。

2. 「空間の音」から「場所の音」へ その 2

○石田康二（小野測器）

【概要】既報で援用した山本と原、レルフとツウアンの言説をそれぞれ重ね、「機能としての建築」と「意味としての建築」また、「没場所性」と「場所性」の対比を示し、前者から後者へのシフトを建築音響領域の視点で考察した。場所の音を創るには、嘗て提案した音環境デザインの 3 原則（消さない、際立たせない、加えない）が、基本的アプローチとなり得ることを述べた。機能的空間は短期のリスク回避が装置化され、それが長期的リスクを潜ませる。場所は、短期的リスクを受容させる代わりに、長期的なリスクを回避させる。短期偏重から長期への、即ち空間から場所への変容が、コンセンサス（共通感覚）として認識されることが、現代という時代の要請である。

3. アメリカのパブリックスペースの音環境調査の報告

○井上瑞紀（日建設計）、清水寧（元東京工業大学）、青木亜美（日建設計）

【概要】パブリックスペースにおいて、周囲の人と会話をする際に不快を感じない状態（Acoustic Comfort）を実現するためにはどのような音響設計をするべきかを調査した。これまでもパブリックスペースの音環境に関する研究は行われてきたが、施工技術の進歩や使われ方の変化によりこれまでの設計方法が応用できない可能性があるため、改めて、多様な使われ方がされているパブリックスペースのあるアメリカで現地調査を行った。フィールド調査を行った大空間の音環境の事例を紹介、分類するとともに、調査から得られたAcoustic Comfort を実現するための建築設計の知見について報告する。

4. トンネル内避難誘導のための拡声放送用メッセージの設計

○横山栄、小林知尋（小林理研）、西岡友樹、吉尾泰輝（首都高速道路）

【概要】筆者らは、都市内長大道路トンネル内における発災時の非常用設備の一つとして、拡声放送設備を通した避難誘導放送の明瞭性確保に着目した検討を行ってきている。これまでに、連続的時間遅延技術の適用による効果を実験的な検討によって確認し、また、残響下での放送であることを考慮し、アナウンス音の話速の最適化、聞きやすい言葉の選定、サイン音の設計等を進めてきた。しかし、実際のトンネル内における発災時に放送が流れた際、必ずしも道路利用者が非常口に向かうといった行動を取っていない様子も報告されており、本報では、より確実に避難誘導を促すために、音声の明瞭性を確保した上で、緊迫感のあるアナウンス音を設計することに着目し、実験的検討を行った。

☆建築音響研究会の別刷(バックナンバー)に関する問合せ先：

担当幹事（<http://asj-aacom.acoustics.jp/backnumber.html>）までご連絡下さい。